

いのちの葉

いつも
いっしょよ！

沖井
智子

目次

スカウティングと仏教章	4
いつも一緒にいてくださる	11
阿弥陀さまがいつも中心	15
自分の未熟さかみしめて	19
腹が立ったら	23
心を震わせる歌	27
広い野原で	31
一緒に喜び、苦しみ、悲しむ	35
知らず知らずのお育て	39
阿弥陀さまへの「ありがとう」	43
阿弥陀さまにお預けして	47

スカウティングと仏教章

人間は、明確な信仰心を持ってこそ、
幸福な人生をあゆむことができる

ベーデン・パウエル卿

「ちかい」と「やくそく」

皆さんは、「スカウト活動」というものをご存知でしょうか？ スカウト活動というと、よく言われるのが「子どもをキャンプに連れていく活動でしょう」「奉仕活動をするんでしょう」この二点です。そして、私が大人になって

「今日は、スカウトの集会だから……」と言うと、決まって「まだやってんの?! あれは、子どもの活動でしょう」「お寺と何の関係があるの?」と言われます。しかし、スカウト活動は、決して子どものためだけの活動ではなく私たち大人のものでもあります。私自身の活動なのです。

スカウト活動の基本は、ボーイスカウトは「ちかい」と「おきて」、ガールスカウトは「やくそく」と「おきて」です。その「ちかい」と「やくそく」のどちらにも、仏さまに対する接し方が謳うたわれています。

スカウト活動のはじまり

スカウト活動は、イギリスではじまりました。

創始者はベーデン・パウエル卿というイギリスの退役軍人です。

子どもたちが、安易に軍隊の真似をして遊んでいるのを見て、「これではいけない。きちんと心のある活動にしなくては」という思いから、子どもたち同士で活動し、自主性を育てる組織を目指したと聞いています。

「スカウト」とは、「斥候^{せつこう}」を意味し、人より少し先に行き、様子を見て、技術を身に着け、それを後から来るものに正確に伝えるという役割が基となっています。

そしてそれは、なにも技術面のことばかりではないのです。

「スカウト活動になぜ仏さまなの？」ということですが、「人間は、明確な信仰心を持ってこそ、幸福な人生をあゆむことができる」「人を幸せにしてこそ、自

分の幸福がある」と、パウエル卿がおっしゃっています。

つまり、パウエル卿は信仰に基づいた行いをすることを奨励し、「スカウトは信仰をもたなければいけない」と言い切っています。そこまで言い切るのにはなぜでしょうか。パウエル卿は敬虔^{けいけん}なクリスチャンであるという土台があり、「人間が、私が、今こうして活動させていただけけるのは、周りの支えがあるから、『いのち』あるものすべてが私を支え生かしてくださっている。『神』に感謝することが一番大切である」と教えてくださっています。

私たち浄土真宗のみ教えを聴く者にとっても同じことです。「神」を「阿弥陀さま」に置き換えるだけです。願われて生きている私たちです。今を一生懸命、精いっぱい生かしていただく、願われたすべての「いのち」を尊重しあつて生